

2024 年度

(令和 6 年度)

学校関係者評価



学校法人 トヨタ整備学園

トヨタ東京自動車大学校

1. 開催日 2025年(令和7年)7月23日(水)

2. 時間 13時30分～15時30分

3. 場所 専門学校トヨタ東京自動車大学校 1号館 123教室

4. 出席者 評価委員：小島 満 トヨタ自動車株式会社
中原 隆雄 トヨタモビリティ東京株式会社
林田 英樹 トヨタS&D西東京株式会社
矢部 寛明 神奈川トヨタ自動車株式会社
佐藤 博之 保護者
愛甲 彰人 館町町会長

学校側出席者：若林 良弘 理事・校長
太田 靖也 教育部 部長
石水 渡 教育部 EA
藤川 龍彦 教育部 EA
今野 康裕 総務部 副部長
綿引裕規 総務部 主幹
嶋原 隆太郎 学生室 室長

欠席者 評価委員：小林 祐 ウェインズトヨタ神奈川株式会社

学校関係者評価委員6名が参加し、過半数以上出席しているため委員会は成立

5. 概要

1) 開会挨拶：若林

2) 資料確認

- ・学校の近況
- ・自己評価報告書
- ・学校関係者評価委員の評価書(A3)

3) 自己評価報告書の基準 1～基準 10 までの説明

4) 各委員による評価結果

【当校の自己点検評価結果に対しての委員評価】

出席委員から、すべての項目に対して良の判定をして頂いた

5) 学校関係者評価

【実施方法】

学校側より令和 6 年度の自己評価について、自己評価報告書を使用して、基準 1～10 まで 1 項目ずつ達成状況、課題、改善事項等について報告し、各々の項目について評価委員よりご意見をいただいた。

なお、自己評価報告書を事前に送付し内容の理解度促進を図った。

1 学校の理念、教育目標

中長期計画の進捗状況説明⇒ 5 か年計画の 5 年目が終了

2 本年度の重点目標と達成計画 I 募集活動 : 学生募集

ブランディングアピールと当校独自の魅力発信の強化で応募者確保

【目標】 応募者数 400 名 (日本人 300 名、外国籍 100 名)

- ① 3 校で共有できるトヨタブランド効果の早期抽出と積極的展開
- ② 各校募集の強み弱みの把握。横展開と改善への対応策検討
- ③ 7 月 A0・10 月推薦・A0 化で更なる早期囲い込み、A05 回化で受験促進
- ④ Web 出願化・ガイドブック・OC タイパ重視、個別フォロー充実で応募率向上
- ⑤ 実績を踏まえた日本語認定校増・つながり強化による留学生の効率的獲得

II・III 教育・環境 : 教育内容・学習環境

- ① 3 校代表職員の連携による資格見直し内容検討と TEAM-GP との融合
- ② BC 研究科・上級課程の授業内容見直しおよび各科電子教科書の作成
- ③ トヨタセールスエンジニア科の職員育成計画の策定
- ④ 全館 wi-fi 化による自動車整備科での PC・タブレットの授業展開の構築
- ⑤ 留学生増加による上級進学率低下防止の計画と実施
- ⑥ 国際整備科の増員を視野に入れた体制構築の検討

IV 学校経営：採用・育成、経営、施設計画

- ① 法人統一による法人本部設置、理事・監事・評議員体制の新構築
- ② 大臣所轄学校法人等への移行に関わる新体制構築
- ③ 管理業務集中化に向けた、会計、労務等システムの構築
- ④ 管理実務業務内容、体制の新構築と必要人員の確保
- ⑤ 集中管理に伴う、労務条件統一への段階的移行
- ⑥ 改正私学法に適應した内部統制システムの強化
- ⑦ 改正寄附行為に準じた所轄区分の会計監査組織の確立
- ⑧ 施設・設備老朽化対応として1号館リノベーション計画の推進

1) 評価委員会からのご意見・ご要望

- ① 1号館のリノベーションの進捗について
- ② 3校を統一して基本理念が同じになり、教育理念や人材育成など3校で取り組んでいくことはありませんか？

2) 学校側の対応

- ① 砂災害警戒区域や市街化調整区域なので校舎の建て替えができない為、来年假校舎を作り、1号館のリノベーション、その後2号館2階、4階のリノベーションを行う3年計画で進めています。
- ② 3校統一の基本理念のもとで今までの東京校のスローガンは、継続し今後もの改善策は東京校で行っていく。

《基準1 教育理念・目的・育成人材像》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

教育理念・目的・育成人材像等、全てが明確であり、将来的にも業界の中心となる卒業生を育成する学校に相応しいものとなっている。

これらは、校長室、職員室をはじめ各教室へも掲示し、意識の統一化を図っている。

またHPにて公表している。

各科の人材育成目標は、教室に掲示し、周知徹底に務めている。

トヨタ自動車と連携し、オンライン教育制度の TEAM-GP を取り入れ、トヨタ販売店との連携でインターンシップや実務見学、また、採用の人材要件を勘案した教育課程編成を行っている。

従来の自動車技術に加えて、新たな環境対応車両等が今後の自動車の主流になると考えられる現在、自動車整備専門学校で教育すべき内容も電気・電子・通信等の要素が重要性を増す等、これまでに比べて非常に多様化し、これらに対応することが課題である。

② 今後の改善方法

自動車社会のニーズを十分に把握し、スマートモビリティ科・トヨタセールスエンジニア科・国際整備科を更にレベルアップし、業界ニーズに合わせた職業実践教育に取り組むと共に、各科の人材育成目標に沿った教育課程の編成を行っていききたい。

(2) 学校関係者評価結果

1) 評価委員会からのご意見・ご要望

特に無し

2) 学校側の対応

特に無し

《基準2 学校運営》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

学校運営については、「基本理念」にあるとおり、自動車技術教育の先進校として人材育成活動を通じて社会に貢献することを基本におき、運営している。自動車技術のみならず、コンプライアンス精神をはじめ、環境配慮に至るまで社会が求める学校運営の理想の姿を実践している。

設置法人においては、トヨタグループ各社より、理事、監事及び評議員が参画し、企業の視点からの意見を伺いながら運営している。

人事給与については、毎年制度見直しを図り、時代に応じた運用をしている。なお、2020年度に導入した人事給与システムについて、校内にて有効に活用されている。

② 今後の改善方法

一法人化する事に伴い、基本理念の統一による見直しの実施およびガバナンス強化を図る。今後の学校教育は、カーボンニュートラルに向けた環境教育及びCASEに対応する電子制御装置の整備技術など、自動車業界の変化に伴う内容へと進めて行く。

(2) 学校関係者評価結果

1) 評価委員からのご意見・ご要望

【2-1-1】学校運営については、法人化の大きな目的の一つのガバナンス強化にあると思いますので、システムだけではなくて、25年度以降はガバナンス調査をプラスしてお願いをしたい。

【2-2-2】東京校への出向がありますが3校が連携して名古屋校や神戸校への出向はあり得ませんか？ 弊社では名古屋校や神戸校からの学生を受け入れており、本部で働いてもらう前に地元での先生の経験をさせたい。

【2-5-1】基幹システムの導入による学生データの一括管理検討がありますが、いつ頃出来上がりですか？

2) 学校側の対応

【2-1-1】前向きに検討します。

【2-2-2】ありがたい話なのでこれから検討させていただきます。東京校の出向者は、1学年3名で考えている。

【2-5-1】スクールリーダーで入学から卒業までを管理しているがそれに加えて、学生募集に強いインフォクラウドというシステムで入学前からの情報を3校統一で管理していく。

《基準3 教育活動》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

『技術を磨け、そして人間性も』のスローガンの下、各科の人材育成目標を掲げ、科毎に社会が求める人材の育成にあたっている。本校は常勤理事に加え、学生が卒業後の主な就職先(トヨタ系企業)より、理事及び評議員が選出されており、人材ニーズの方向性は明確に把握できている。国家試験合格への取り組みにも力を入れており、2024年3月に卒業した学生の国家試験の合格率は、1級小型、2級ガソリン、2級ジーゼル、車体整備士の全てにおいて100%となっている。

教育課程に関しては、毎年授業担当が、授業内容の振り返りを行い、次年度への改善提案を、上げている。また、教育課程編成委員会の委員より提案された内容を教育課程に取り込み、より実践的な実習を行っている。

また教育方法については、従来のやり方に固執することなく、様々な教育環境の変化に応じて柔軟性を持って見直しを実施している。

成績評価基準は、学則ならびに学則細則に規定し学科点、実技点、平常点を決め、その総合計点で成績評価を行っている。これらは、入学後のガイダンスで学生へ周知すると共にHPでも公表している。

トヨタ自動車との連携により、最新技術の研修を実施。これを授業へ反映し最新技術を学生へ教育している。

② 今後の改善方法

過去最大学生数の国家資格 1 級 100%合格に向けた課題・改善・範囲を絞った内容で過去問題実施の改善継続・口述試験の回答範囲の見直し実績の改善継続・留学生に対応した回答方法の改善継続、欧州研修、学園祭、名古屋研修、スマートモビリティ科の淡路島でのリチウム電池研修は予定通り実施出来た。トヨタ 3 校で協力して実施することが出来る研修旅行などの検討。

(2) 学校関係者評価結果

1) 評価委員会からのご意見・ご要望

【3-1-2】スマートモビリティ科の Team GT は、G2 取得か。

【3-4-1】 ・免許を取るには時間がかかるが、いつをめぐに免許取得をさせているのか。また、免許を取りに行くタイミングを指導はしているのか。

・留学生は、日本で免許を取っているか？

・仮免許がないと就職活動をさせない学校がある事からも、前倒しに免許を取れるようお願いしたい。

・合宿免許を勧められないか。

・入社までに免許が取得できず更に国家試験を落としてしまう人は、入社後に問題を起こすパターンが多い。入社前に事前取得させて欲しい。

2) 学校側の対応

【3-1-2】 G 2 を取得して卒業になります。大卒と一緒に卒業要件となります。

【3-4-1】 ・入学前に取ってもらうように伝えていますが。目標として 2 年時 6 月末の安全運転講習までに免許を取得するように勧めています。それでも取得できない学生は、夏休みまでに取得するように勧めています。

・国内で取得しています。

・免許で就職試験を受けさせないのは、可能性をつんでしまうので留学生にとっては、とても辛いことではないか？

・合宿免許を取るためのまとまったお金が無く、留学生はローンが組めないこともあり厳しい。また、アルバイトの計画書を書かせている。アルバイトは、週 28 時間以内と決まっている。

《基準 4 学修成果》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

就職は、校内に於いて説明会の実施、会社訪問、就職試験と関連企業との連携しながら、関連業界へ正社員として100%の就職を教育成果として実績を残している。資格取得は専門学校に求められる最も重要な要素のひとつと位置付けて、常に受験者全員合格を目指して取り組み、毎年登録試験後に問題の分析を行い、その対策を着実に行った結果として現れたもので、毎年ほぼ100%の合格率を修めている。各科で資格取得に向け、対策授業を行い教科書改訂等に伴う教育課程の変更も毎年検討し、成果として残している。卒業生が、全国技術コンクールへ出場し、成果を残した際は校内にて紹介している。就職活動の早期化に対して、教育課程を見直し、一般教養等キャリア教育の時期を見直すと共に、企業説明会、訪問等の時期も見直しをして就職先選択を選択できる時間を確保する。就職率は100%であるが、第一希望内定率向上に向けて更に努力していきたい。(第1希望内定率96.8%) 特記事項

② 今後の改善方法

第1希望内定率をより高めるために留学生の不合格対策を検討し、限りなく100%を目指す会社説明会の開催時期を早めることで冬休みを使った会社訪問が出来るように検討。(12月・1月実施→12月に集約を検討)

(2) 学校関係者評価結果

1) 評価委員会からのご意見・ご要望

特に無し

2) 学校側の対応

特に無し

《基準5 学生支援》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

学率低減に向けては、入学前教育により基礎学力を向上させ問題のある学生に対しては、担任、科目担当、保護者と連携し学習、生活指導と幅広く教育活動に当たっている。退学率低減を課題と捉え、今後もより一層の努力をして更に退学率低減に努めたい。

今後の改善方策 → 退学率低減に向けては、入学前教育の効果を見る仕組みを作り、入学前教育内容の改善を図ることで、一定の成果が出ている。学生のような悩みに早期に気付き対応・指導する教員の指導力を更に強化する事により、継続して退学率低減を図りたい。学生相談に関しては、担任による面談、また相談室を開設し外部相談員による面談も行われている。

また、学生が安心して満足のいく快適な学園生活を送れるような配慮・支援については常に心掛け、更にクルマ好きになれるよう「車が好きで、逞しい人材を育成する」諸活動を積極的に実施している。

ハラスメントへの対応としては、対応規則を設け、窓口を設置した上で学生・職員に周知し、相談しやすい体制を確立した。

留学生に対しては、生活指導からアルバイトに至るまで実施し、特にアルバイトは担任よりアルバイト先に連絡を取り、就労時間が多くなり過ぎない等の確認を実施している。

保護者との連携は、入学式、保護者説明会、各学期の書簡と十分に取れている。また、出欠管理、試験等で問題があれば、その都度連絡をしている。

国際整備科の設立により、留学生への支援内容や就職支援の幅も広がった。卒業生を輩出したことで、3年間のカリキュラムの確立と今後の改善をすすめるデータ集めが出来た。今後の人数拡充に伴ない更なる課題のあぶり出しと改善をすすめている。

同窓会支部活動を有効活用して卒業生ネットワークの利用を検討していきたい。

② 今後の改善方法

⇒退学率低減に向けては、入学前教育の効果を見る仕組みを作り、入学前教育内容の改善を図ることで、一定の成果が出ている。学生の様々な悩みに早期に気づき対応 指導する教員の指導力を更に強化する事により、継続して退学率低減を図りたい。

⇒キャンパスハラスメント防止ガイドラインの展開。学生ポータルサイトの活用。

⇒卒業生の支援として同窓会支部を販売店グループ会社と協力して運営を検討(岩手県・東京・神奈川県・山梨)年1回の集まりに参加して、5年毎に実施している同窓会総会への参加の呼び掛けをすることで、卒業生と連携し同窓会組織や資格取得に関する支援、自動車業界の現状に関する情報交換等を行っていきたい。

(2) 学校関係者評価結果

1) 評価委員からのご意見・ご要望

【5-3-1】 国際化の定員を増やすことで日本語の能力が下がってしまうのでは？同じ国の人で固まらないクラスにしてもらいたい。

【5-3-2】 研修中は、母国語を禁止で配属先でも同じ国の人で固まらないようにしている。日本語検定での目標はどのあたりですか。また、自動車の用語に合わせた日本語教育を行ってもらいたい。

【5-3-2】 弊社ではマレーシアへの1か月の研修制度があり、外国語で苦労した経験があると帰国後は、留学生への対応が優しくなる。

2) 学校側の対応

【5-3-1】 2年目以降同じ国の人が3人以上にならないようにしている。次年度も、今のやり方が一番良いやり方と信じて動きます。

【5-3-2】 日本語の講師によるN2の合格7割を目標に進めている。また、試験では、部品名称を答えさせることや口頭質問をして自動車用語の対応も行っている。

【5-3-2】 苦労を経験した社員の対応を期待したい。

《基準6 教育環境》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

教育環境は、専門学校としては十分な環境と言える。また、施設・設備は、中長期的な計画に基づいて、教育上の必要性に十分対応できるよう順次整備を進めている。学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備している。1級自動車科のインターンシップは、国土交通省規定通りに実施し、他の科でも取り組んでいる。防災に関しては、東日本大震災の経験を踏まえ、防災マニュアルを作成し、毎年見直しを実施している。避難訓練に関しては、新入生が入学して日が浅いうちに実施している。また、寮生に関しては、寮からの避難訓練だけでなく、防災備蓄倉庫の紹介、使用方法までを訓練の一部として実施している。

② 今後の改善方法

現在推進している中長期計画の中に、教育施設・設備の充実を盛り込んで、更なる教育環境の整備を目指している。保護者・学生・教職員への連絡手段としてシステム導入を検討中。

(2) 学校関係者評価結果

1) 評価委員会からのご意見・ご要望

特に無し

2) 学校側の対応

特に無し

《基準7 学生の募集と受入れ》

(1) 自己評価結果

①総括と課題

学校運営に直接関わる学生募集活動は、少子化や業界環境等の変化で定員を満たすのが厳しい状況にあるが、教職員一丸となつての取組みやトヨタグループ各社の協力も得ながら、日々努力している。また、国土交通省でも「自動車整備要員の人材確保・育成に関する対策」を検討しており、昨年引き続き運輸支局長等による高校訪問で、自動車整備の仕事に関する説明を実施している。本校での募集活動では、学校評価の一つとなる就職、資格取得等の実績を正確に公表し、入学選考も適正かつ公平な基準に基づき実施している。今後も自動車業界に不可欠な専門技術を修得した優秀なエンジニアを継続的に輩出するために、サービスエンジニアの魅力、自動車の魅力を十分に理解されるような広報活動を重視した学生募集活動を展開していきたい。

②今後の改善方法

募集につながる当校認知の拡大のため、オンラインWEB系PR活動やオープンキャンパス、各種イベントへの認知活動を強化する。自動車エンジニアの待遇改善が進んでいる。この変化を高校生などに積極展開し、自動車業界に興味を持つ生徒を増やしたい。トヨタ自動車、トヨタグループ販売店との連携をさらに強め、自動車業界の魅力を若者により強く伝えたい。高校生に魅力ある大学卒業資格(学士)を授業内で取得できる学科(ボデークラフト研究科)を増やしし魅力を高めたい。

(2) 学校関係者評価結果

1) 評価委員会からのご意見・ご要望

【7-1-1】2025年度の新学科は、どの学科か。

【7-1-2】地域の保護者向けのアピールになるので、以前行っていた地域向けのミニ四駆大会を復活させてもらいたい。

2) 学校側の対応

【7-2-1】ボデークラフト研究科で2年課程になっているので新学科になります。

【7-1-2】前向きに検討します。

《基準8 財務》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

少子化・大学全入時代到来等の影響による応募者減少傾向にあったが、留学生希望者の増加もあり、本校はトヨタ自動車(株)直営校としてのメリットを活かし、入学希望者数を増して行きたい。

募集環境は今後も国内は厳しい状況が続くと考えられる中、留学生の回復と合わせ、新中長期計画に沿って対応して行く。今後は、一法人化によるスケールメリットを最大限に活かし、法人全体として黒字継続での収支均衡化を図る。

(2) 学校関係者評価結果

1) 評価委員会からのご意見・ご要望

特に無し

2) 学校側の対応

特に無し

《基準9 法令等の遵守》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

コンプライアンス（法令等の遵守）においては、学校方針に基づき、真摯に取り組んでいる。法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。個人情報に関しては、その保護のためのハード面、ソフト面において対策が取られており、自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めており、2014年度より公表している。学校関係者評価においても実施、公表しており、今後も課題と指摘された内容を学校運営に反映および制度、運用面等の改善を実施していきたい。教育情報はHP等により、情報公開している。

② 今後の改善方法

法令改定等の入手の確実性を高めたい。一法人化に伴い内部統制の厳格化を検討。

2025/7/31 参照資料 自己評価報告書学校関係者評価報告書教育部各種書類・データ類今後の改善

(2) 学校関係者評価結果

1) 評価委員会からのご意見・ご要望

特に無し

2) 学校側の対応

特に無し

《基準10 社会貢献・地域貢献》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

育方針の一つに社会貢献活動を盛り込んで実施している。また、社会貢献を通じた人材育成を重要な学生教育手法の一つと考えて、積極的に取組み人材育成に寄与している。地域社会の一員としてだけでなく広く官公庁、企業、団体からの協力要請に対して、できる限り貢献できるよう対応している。防災面では、ここ10年の学校・学生・教職員の熱心な貢献活動への取り組みにより、2024年度は2つの表彰を受賞・総務省より「第29回防災まちづくり大賞 日本防火防災協会会長賞」を学校が受賞・東京消防庁より「第21回地域の防火防災功労賞 最優秀賞」を学校が受賞さらに地域貢献活動では、地域での健全育成への貢献から八王子市教育委員会から学校が表彰社会貢献活動として、学園祭での収益の寄付により交通遺児等育成基金より学校が感謝状を受けた。

② 今後の改善方法

特に無し

(2) 学校関係者評価結果

1) 評価委員会からのご意見・ご要望

【10-1-1】 女子バスケットボールの大会の主催を辞めた理由は何ですか。金銭的な援助はありますか？

2) 学校側の対応

【10-1-1】 事務局の方が病気になり中断しています。15年続いた大会でもあり、参加者の中には入学生もいますので今後、検討していきます。

金銭的援助は、会場の無料貸出しと優勝カップを提供しています。

6) その他評議委員会からの意見

① 免許の問題ですが親御さんにお金を立て替えてもらえないか。また、留学生のパンフレットに免許取得にかかる費用を掲載した方が良いのではないかと。

⇒ パンフレットは検討します。

② 留学生増加に伴うクラス編成のあり方検討はありますか。

⇒ 昨年度はボデークラフト研究科したように、クラス編成は方向性が決まりました。

③ 全館wi-fi化とありますが自動車整備科だけの記載になっていますが。

⇒ 上級学科は以前よりwi-fi設備が整っていましたので自動車整備科の場所に入れたことで全館wi-fi化となりました。

④ セールスエンジニア科とボデークラフト研究科の職員育成についての計画は。

⇒ ボデークラフト科は、昨年度職員が学生となり学びました。

また、セールスエンジニア科も社内育成していく予定です。

⑤ 10月に地域センター祭りがあり5,6人のボランティアが参加してくれます。留学生も参加してくれていますが、日本語上手に話しているように感じている。また、防災ボランティアでは、車の提供をしてもらい子供達も喜んでいしますので、学校の宣伝にもつながっていると感じています。

⇒ 学生の活躍を評価していただきありがとうございます。

⑥ 1級の口述試験の対応を東京校のようなフォローを名古屋校、神戸校でも行ってもらいたい。

⇒ 提案します。

⑦ 内定後にタトゥを入れてしまう学生もいる。3校統一で身だしなみも指導してもらいたい。

⇒ 学校ごとにポリシーが違うので集約して現場の声を反映できるようにしていきたい。

6. 総括

学生の理解度を向上させるアイテムとしてタブレット導入が進んでおり、紙ベースとデジタルのハイブリットで対応を進めて行き教育効果を高めていきたい。今後はトヨタ三校の一法人化で相乗効果を期待したい。

以上